

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

〈月報〉 平成19年1月 (第1～4週)

発行年月日：平成19年(2007年) 1月 13日
 発行 行：滋賀県衛生科学センター内
 滋賀県感染症情報センター
 電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 19年		平成 18年		感染症 類型	疾 病 名	平成 19年		平成 18年	
		1月		1～12月				1月		1～12月	
		滋賀県	全国	滋賀県	全国			滋賀県	全国	滋賀県	全国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	四類	デング熱	0	1	0	57
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0		ニパウイルス感染症	0	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	0	0	45
	痘そう	0	0	0	0		日本脳炎	0	0	0	7
	ペスト	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0		ブルセラ症	0	0	0	5
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	発しんチフス	0	0	0	0	
	コレラ	0	1	1	47	ポツリヌス症	0	0	0	2	
	細菌性赤痢	0	42	16	483	マラリア	0	0	0	61	
	ジフテリア	0	0	0	0	野兔病	0	0	0	0	
	腸チフス	0	3	0	72	ライム病	0	0	0	13	
	パラチフス	0	1	0	24	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	
	腸管出血性大腸菌感染症	0	56	54	3,910	レジオネラ症	1	28	11	508	
四類	E型肝炎	0	2	2	70	レプトスピラ症	0	0	0	24	
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	五類	アメーバ赤痢	1	50	8	738
	A型肝炎	0	7	21	316		ウイルス性肝炎	0	7	0	275
	エキノкокクス症	0	1	0	20		急性脳炎	0	8	1	160
	黄熱	0	0	0	0		クリプトスポリジウム症	0	1	0	14
	オウム病	0	1	0	22		クロイツフェルト・ヤコブ病	0	6	0	177
	回帰熱	0	0	0	0		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	12	6	107
	Q熱	0	0	0	2		後天性免疫不全症候群	0	57	8	1,301
	狂犬病	0	0	0	2		ジアルジア症	0	3	1	87
	高病原性鳥インフルエンザ	0	0	0	0		髄膜炎菌性髄膜炎	0	1	0	14
	コクシジオイデス症	0	0	0	2		先天性風疹症候群	0	0	0	0
	サル痘	0	0	0	0		梅毒	0	24	4	625
	腎症候性出血熱	0	0	0	0		破傷風	0	1	1	115
	炭疽	0	0	0	0		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0
	つつが虫病	0	27	0	397		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	4	0	79

滋賀県における全数報告 感染症の概要(1月)

<レジオネラ症>

男性・60歳

推定される感染経路は塵埃感染、推定される感染地域は日本国内です。

<アメーバ赤痢>

男性・65歳

病型は腸管外アメーバ症で、推定される感染経路は経口感染です。また、感染地域は日本国内です。

*1 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分2件を含む、

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点に分かれています。

1月の概要

<インフルエンザ>

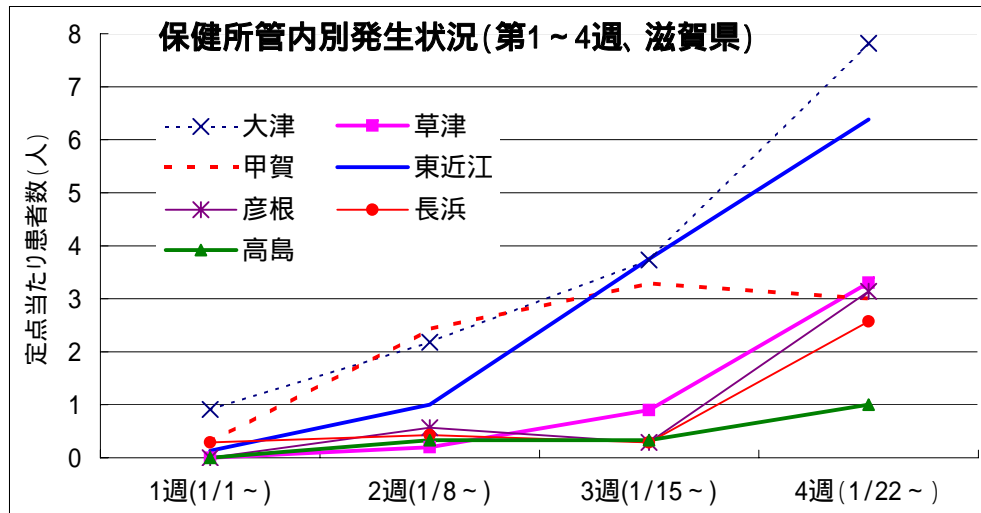
第2週(1/8~1/14)から急増しはじめ県全体の定点当たり患者数は1.11となりましたが、昨年同時期よりかなり少ない状態でした。保健所管内別にみると、大津、甲賀および東近江からの報告が多くなっていました。第1~4週の保健所管内別の発生状況は下記のグラフに示すとおりです。

<小児科定点疾患>

伝染性紅斑およびRSウイルス感染症は先月より増加しましたが、その他の疾患については先月より減少または横ばいとなりました。感染性胃腸炎については、第1週にはすべての保健所管内の定点当たり患者数は警報発生基準値以下となりました。また、水痘については東近江および彦根に、伝染性紅斑については彦根および高島に、咽頭結膜熱については草津に警報の発生が出されてきました。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より増加し、東近江保健所管内からの報告がやや多くなっていました。基幹定点疾患であるマイコプラズマ肺炎は先月より増加し、特に長浜保健所管内からの報告が多くなっていました。

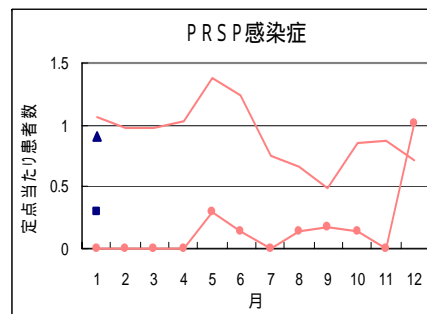
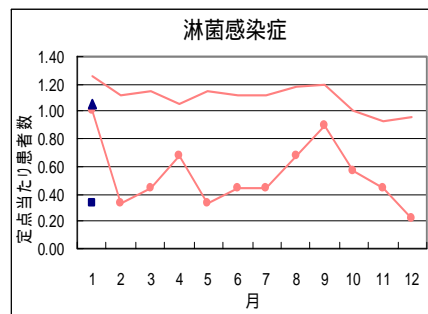
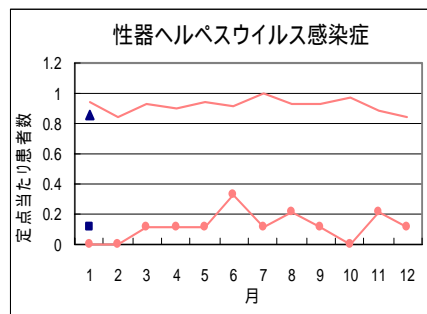
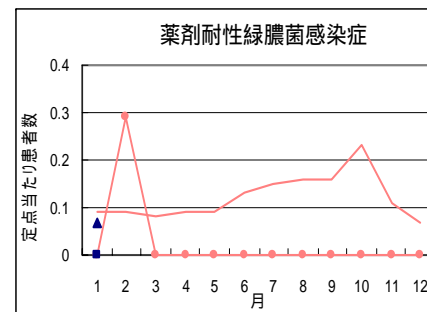
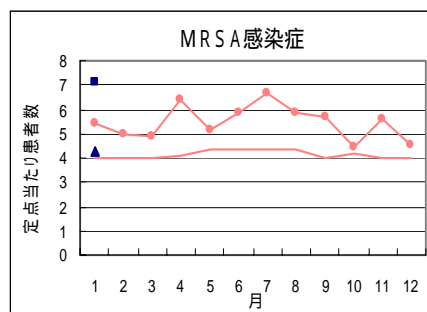
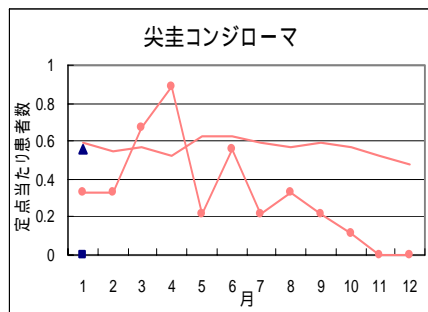
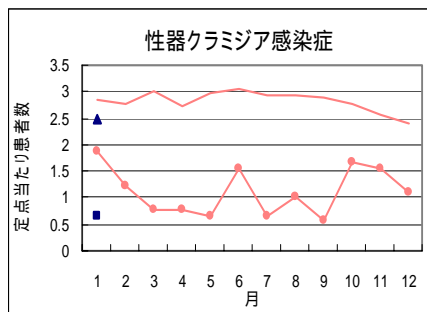


<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、咽頭結膜熱、A群溶レン菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳、突発性発しん、ヘルパンギーナ、風しん(三日はしか)、麻しん、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、成人麻しん、クラミジア肺炎(オウム病を除く)

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成19年1月)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	罹患数	6												6
	定点当たり	0.67												0.67
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患数	1												1
	定点当たり	0.11												0.11
尖圭コンジローマ	罹患数	0												0
	定点当たり	0												0
淋菌感染症	罹患数	3												3
	定点当たり	0.33												0.33
MRSA感染症	罹患数	50												50
	定点当たり	7.14												7.14
PRSP感染症	罹患数	2												2
	定点当たり	0.29												0.29
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0												0
	定点当たり	0												0

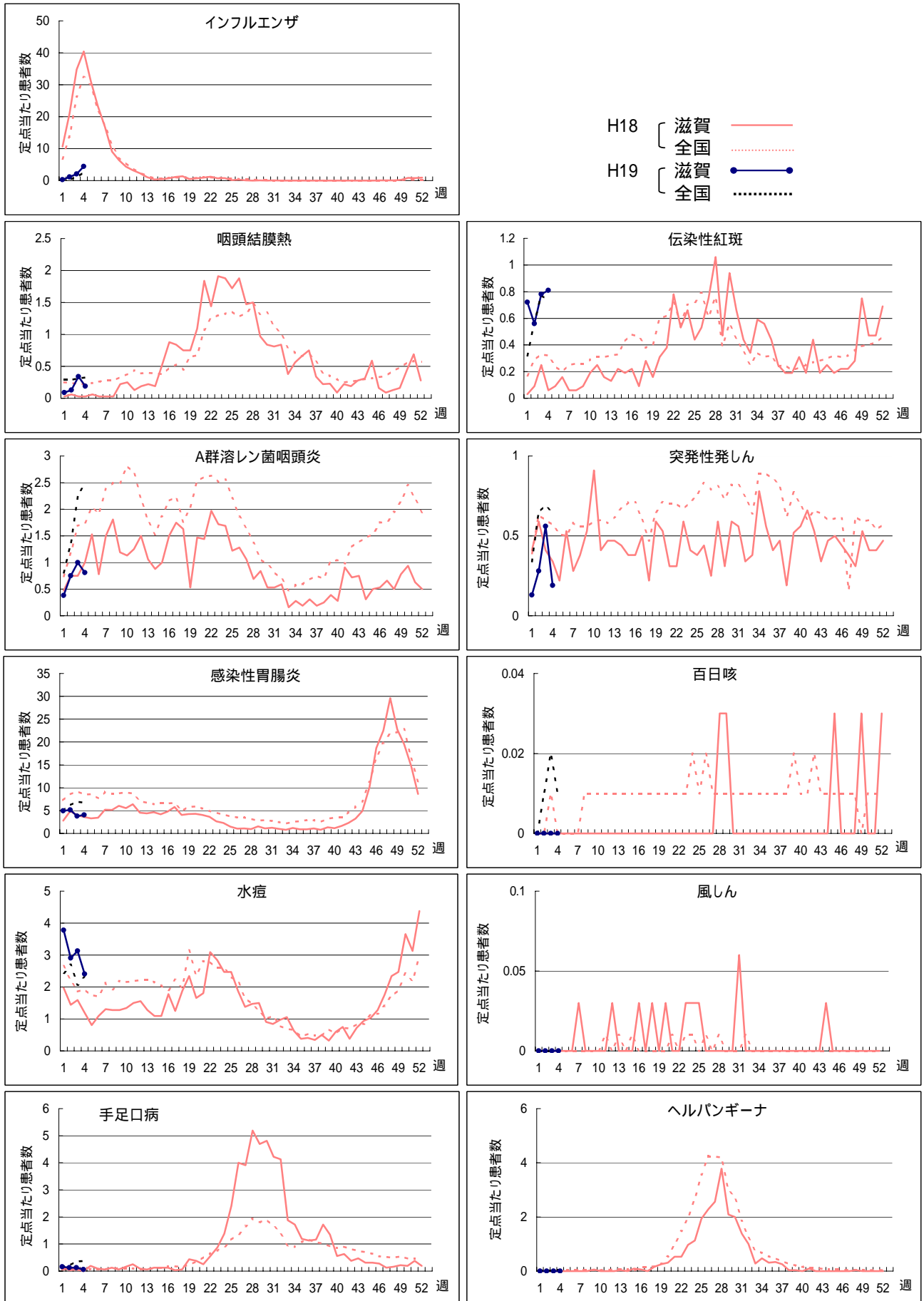


*平成19年1月のデータは、全国、滋賀として表示しています。

戻る

H18
 { 滋賀 ●—●
 全国 —
 H19
 { 滋賀 —
 全国
 MRSA:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
 PRSP:ペニシリン耐性肺炎球菌

疾病別定点当たり患者数(平成19年第1週～第4週、H19.1.1～H19.1.28)



疾病別定点当たり患者数(平成19年第1週～第4週、H19.1.1～H19.1.28)

H18 〔 滋賀 ————
 全国 - - - - -

H19 〔 滋賀 ●—●—●—
 全国 - - - - -

